

研究主題 「読むこと」の能力を伸ばし、自らリーディング活動に取り組む生徒を育てる指導法の工夫 ーリーダーズシートを使った活動を通してー

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
千代田区立神田一橋中学校 教諭 井上武始

I 研究のねらい

現行の中学校学習指導要領では、「国際化への対応」を目標に外国語が必修教科となり、「聞く」「話す」内容に重点が置かれるようになった。平成15年3月には、この新教育課程を推進するために「英語が使える日本人」の育成のための行動計画が策定された。その中で学習指導要領の趣旨実現が力説され、そのための施策が打ち出された。

こうしたことを受け、多くの中学校の英語の授業では、日常的な会話や情報交換の場面に即した「聞くこと」「話すこと」の活動を主体とした音声によるコミュニケーション能力の育成に一層の重点が置かれるようになった。しかしながらこうした状況は、授業時数が限られていることなどもあり、「読むこと」「書くこと」の活動を主体とする文字によるコミュニケーション能力の育成とのバランスを欠くという面も出てきた。

英語を運用してコミュニケーションを図るということは、英語をアウトプットすることであり、そのためには、語いのインプットが必要である。堀部(1994)は「ほとんどの学習者にとっての最大のインプット供給源は、やはり活字を読むことにあると言える。」と述べている。「読むこと」の活動を実践し、語いのインプットを増加させることは、実践的コミュニケーション能力の伸長につながる。そこで、自らリーディング活動に取り組む生徒を育てる指導に着目し、研究を進めることにした。

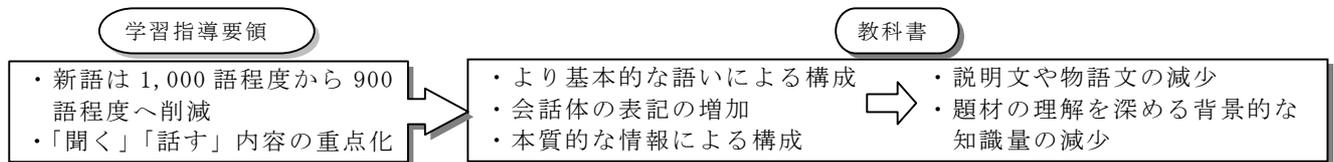
II 研究の内容と方法

1 基礎研究・先行研究

現行及び過去の教科書、中学校学習指導要領、並びに東京都教育研究員等の先行研究や文献等で、教科書掲載の題材の構成や内容、「読むこと」の活動や指導法等の調査・分析を行った。

(1) 教科書の移り変わり

教科書は、中学生にとって語いのインプット供給源の中心であるが、学習指導要領の改定に伴いその内容と構成に次のような変遷が見られた。



(2) 読むこと

① 直読直解

本来「読むこと」の最終的な目標は、英語を読んで英語のまま理解するという直読直解である。しかしながら中学校段階の授業では、内容を一字一句正確に理解することを目的に文法訳読を中心とした指導が多くされてきたと思われる。前述の目標達成には、多くの英語に接し、内容を理解する活動を多く実践することが効果的であることが確認できた。

② スピードリーディング

多くの英文に接すれば、「読みのスピード」が高まるということが確認できた。「読みの

スピード」は、Words Per Minute（1分間当たりの読み取り語数。以下WPMと表記する。）
で測定する。これにより「読みのスピード」を数値化することができる。

こうした成果から、「英文を繰り返し読み、英文を日本語に訳さずに、英文のままその内容を
理解する」ことを本研究において「リーディング」と定義した。また、仮説を以下のように設
定して研究を進めることにした。

仮説

主体的に繰り返し英文に接し、大意を把握する力を身に付ければ、生徒の「読むこと」
への意欲と能力が高まるであろう

2 調査研究

都内公立中学校6校で、生徒の英語学習への取組みの実態及び意識について質問紙法による
調査を実施した。

英語の4技能について、「大切」だと思える技能はどの技能ですか」との問いに、「話すこと」
を1位と回答した生徒が最も多く49.1%、これに対して「読むこと」を1位と回答した生徒は
最も少なく9.0%であった。また、「得意」だと思える技能はどの技能ですか」との問いでは、「読
むこと」を1位とした生徒は、最も多く34.2%であった。しかしながら、読解について質問し
たところ「意味の分からない単語があると読むことをやめてしまいたくなる」という問いに対
しては、57.5%の生徒が、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した。

こうしたことから、「読むこと」の活動を、「得意」と考えている生徒の割合は高いが、文中
の語いの意味の難易によって「読むこと」ができるかどうかを判断していると考察できた。

3 検証授業

仮説検証のための指導法を考え、授業を実施した。

(1) 題材の選定

生徒が、題材を読んで「内容を理解できた」と実感することが、重要なことだと確認できた。
そのため、以下の条件で題材（物語）を選定し、教材として使用することにした。

- ・教科書1ページの平均的な単語数が、100語前後なので、単語数150語ほどで長すぎないもの
- ・未習語は1パラグラフに2～3語程度で、中学生の語い力でも推測をすれば読めそうだと思うもの
- ・内容（話）にユーモア（落ち）があり、読む楽しさを感じることができるもの
- ・ユーモア（落ち）を表現する挿絵がついていることから、日本語へ訳すことなく内容理解を深めるもの

(2) リーダーズシートの開発

生徒は、自身が有する力を数値で知ることができれば、努力目標としてそれを高めるのでは
ないかと考え、WPM値の活用に着目した。

そこで、表計算ソフトウェアを使用して生徒自身がWPM値や読んだ回数等を記録し、そうし
たデータが瞬時にグラフとして表示することができるワークシート形式の電子ファイルを開発
した。このシートをリーダーズシートと名付けて授業で活用することにした。

(3) 大意の把握

内容理解は、細部にこだわらずに大意の把握をねらいとした。大意の把握は、英文から、時
（When）・場所（Where）・誰が（Who）・何を（What）・どのように（How）などを表すキーワード
を見つけ、状況の変化を明らかにすることである。そうした状況の変化を頭の中に絵で描き、
内容のユーモア（落ち）を絵で想像するようにと指導した。なお、内容理解ができたかの確認
手段として、授業の最後でユーモア（落ち）を表現する挿絵を見せると生徒には伝えた。

また、意味の分からない語いが出てきても、辞書を使わずに前後の内容からその意味を推測する力を高めることをねらい、英文を読み始めたら文の最後まで読みきる（返り読みをしない）ように、目の動きに合わせて指・ペン等を一緒に動かすように指導した。

(4) 授業のもち方

2時間の授業を1セットと考え、各校時でWPMを測定する。繰り返し読む活動は、家庭での宿題とした。各生徒が自身のWPM値を知り、繰り返し読むことでWPM値の変化を実感すれば、生徒の「読もう」という意欲が向上し、主体的なリーディング活動になるのではないかと考えた。

また、授業時間内に各生徒のデータを集計し、クラスや学年の平均値等を示すことにより生徒一人一人にWPMの数値目標を設定させ、更に意欲を高めようと2週間後に2セット目の2時間、合計4時間の授業を実施した。

		学習活動・内容	留意点
6月	1校時	1 リーディング活動の説明、注意 ①読み方について ②スピードについて ③内容理解について ④単語について ⑤リーダーズシートについて 2 Reading Practice (題材1) ①Words Check ②Listening ③Silent Reading ④Silent Reading and Time First WPM ◇ ⑤Questions and Answers	・何をする活動であるかを明確に示し、活動のねらいを意識付ける
	2校時	1 Reading Practice ①Silent Reading and Time Last WPM ◆ ②Questions and Answers 2 Dating	
7月	3校時	1 Check the date 2 Reading Practice(題材2及び3) ①Words Check ②Listening ③Silent Reading ④Silent Reading and Time First WPM ◇ ⑤Questions and Answers	・前回の個人データを確認させる ・前回の学級・学年の平均値を示す ・目標値を設定するよう指示する ・2つの題材に取り組ませる
	4校時	1 Reading Practice ①Silent Reading and Time Last WPM ◆ ②Questions and Answers 2 Dating	

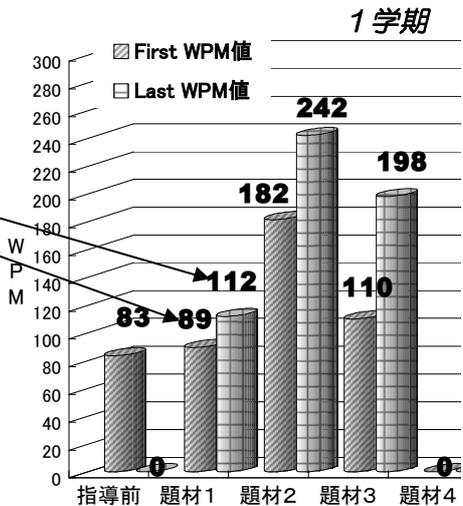
検証授業学習指導略案

検証授業における生徒Aのリーダーズシートの記録より

Last WPM 値

First WPM 値

題材	指導前	題材1		題材2		題材3		
語数	153	149		121		165		
First WPM ◇	83	110	89	100	182	40	110	90
1st	153	○	149	○	121	○	165	○
2nd			298	○	242	○	330	○
3rd			447	○	363	○	495	○
4th			596	○	484	○	660	○
5th					605	○	825	○
6th								
7th								
総読語数	153	596		605		825		
Last WPM ◆			112	80	242	30	198	50
F⇒Lの伸び率	0	25%		33%		80%		
目標				130		140		
目標到達率	0	0		86%		41%		



連動グラフ(抜粋)

読んだ回数

リーダーズシート(抜粋)

Ⅲ 研究結果と考察

1 成果

(1) 読みのスピード

リーディング活動の実施前後で WPM 値を比較すると、実施後の値は高まった。

3つの題材を使用したが生徒の1つにでも取り組んできた生徒(図1 宿題 ○)は、取り組まなかった生徒(図1 宿題 ×)と比べてその伸び率は高かった。

また、1セット目で題材を家庭で読み、WPM 値の高まりを実感できた生徒は、2セット目の3・4校時の授業においても宿題に取り組み、繰り返し読んできていた。

(2) 理解

「英文を読んで想像した状況は挿絵に近いものでしたか」(図2)との問いに対して、各題材で、「完全に」「おおむね」と答えた生徒は、50.0%以上であった。

また、「振り返りしないように指やペンを使って読むことができましたか」との問いに対して、「はい」「おおむね」と答えた生徒は、72.5%であった。

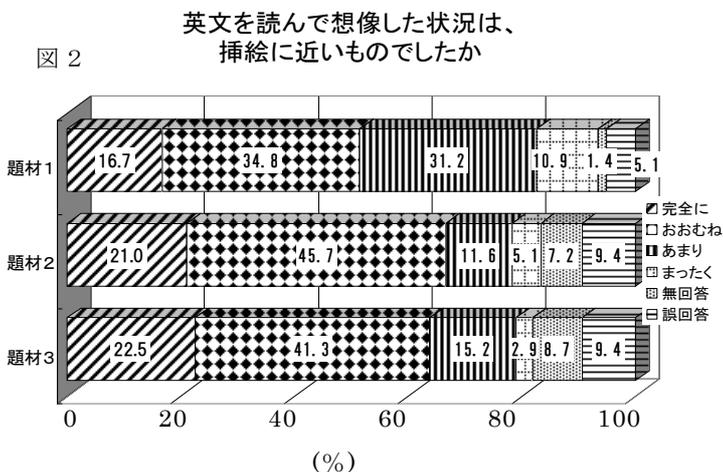
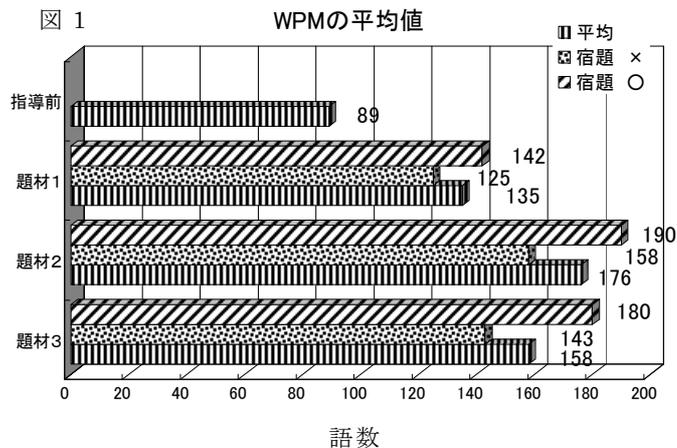
2 まとめ

リーディング活動に取り組み、リーダーズシートで WPM 値とそのグラフを見ることから、生徒は自身のスピードの高まりなどをとらえることができた。また、状況の変化を頭の中に絵で想像することができた生徒は、大意を把握し、内容を理解することができたといえる。このことから、このシートとリーディング活動は、「読むこと」への意欲を高め、「読むこと」の能力を高めることに有効であったといえる。

また、リーダーズシートは教師が個に応じた指導に活用できることも分かった。各生徒のデータを確認することで一人一人の生徒の学習状況やスキルの変容を知ることができるとともに、各生徒のデータを集計することで、瞬時にクラスや学年の平均値を求めることができるので、学習の到達状況や選定した題材の難易の度合いなども測定できることが確認できた。

Ⅳ 今後の課題

本研究では、物語を題材として活用したが、60.0%以上の生徒は、大意の把握ができていたため、生徒にとって適切な題材であったといえる。しかし、物語以外の題材で状況を絵で想像し、大意の把握をするという方法を活用することは難しい。今後は、他の題材を選定し活用することも視野に入れ、その際の工夫等について研究に取り組むことが必要であると考えられる。



資料1 (報告書「Ⅱ 研究の方法と内容 2 調査研究」の記述の基となるデータ)

生徒の英語学習への取組みの実態及び意識調査

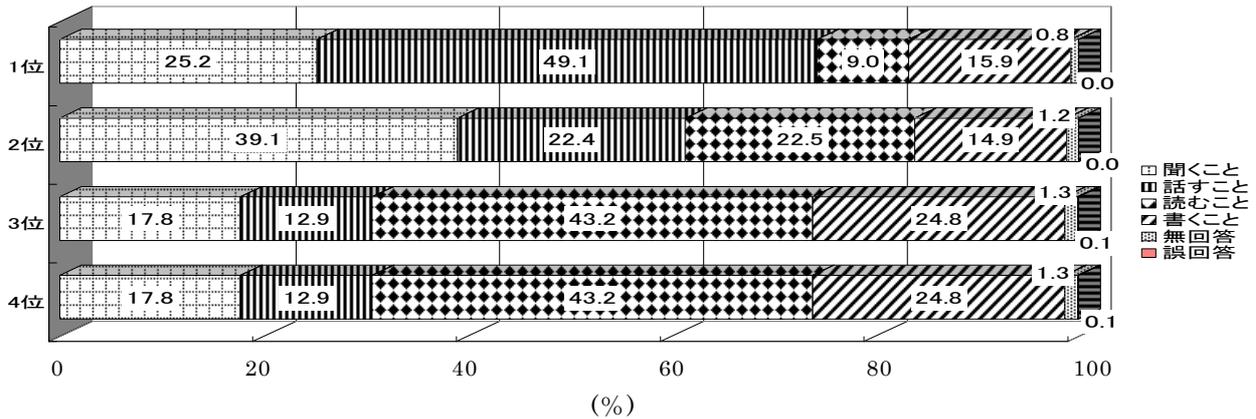
対象：都内公立中学校6校、第2・3学年在籍生徒 回答数 1,014名

実施期間：平成18年6月12日～16日

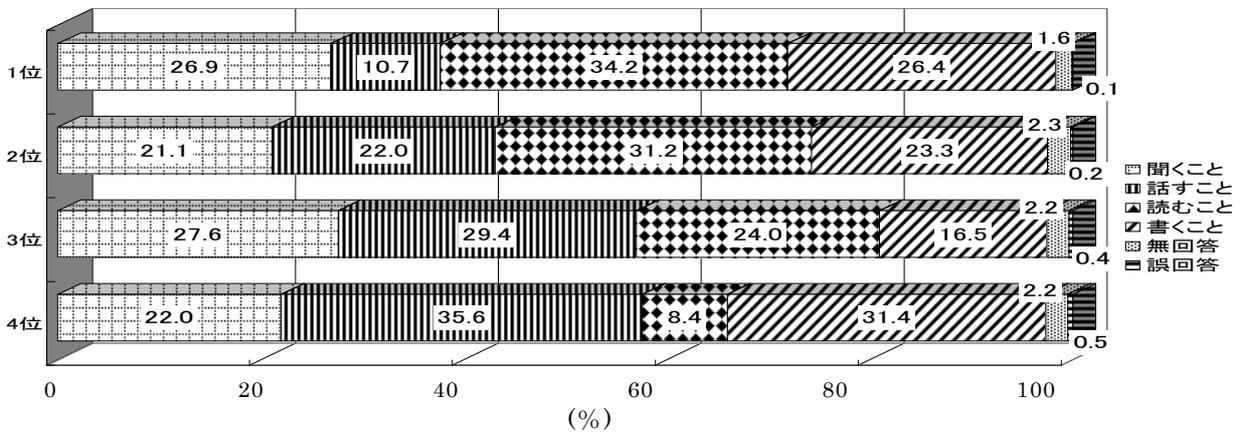
(※グラフの数値は小数点第2位を四捨五入したため合計が100%にならないこともある)

英語の4技能について

「大切」だと思う技能はどの技能ですか

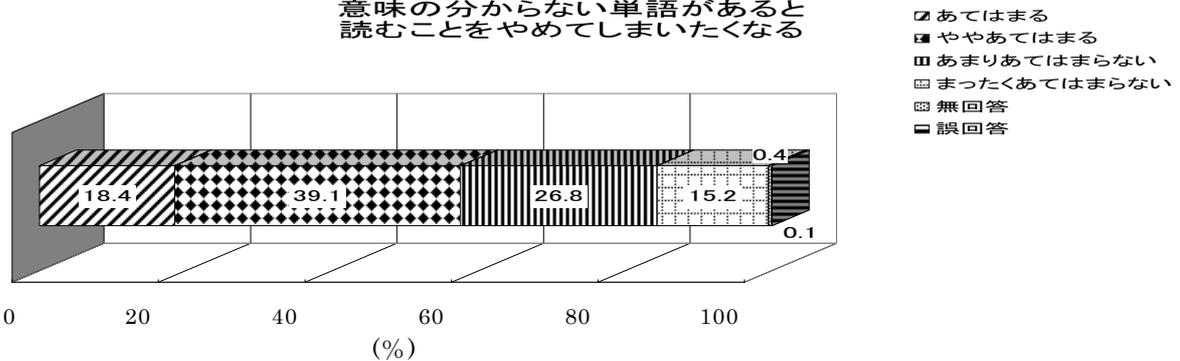


「得意」だと思う技能はどの技能ですか



読解について

意味の分からない単語があると読むことをやめてしまいたくなる



資料 2 (報告書「Ⅱ 研究の方法と内容 3 検証授業」(4) 検証授業学習指導略案の元版)

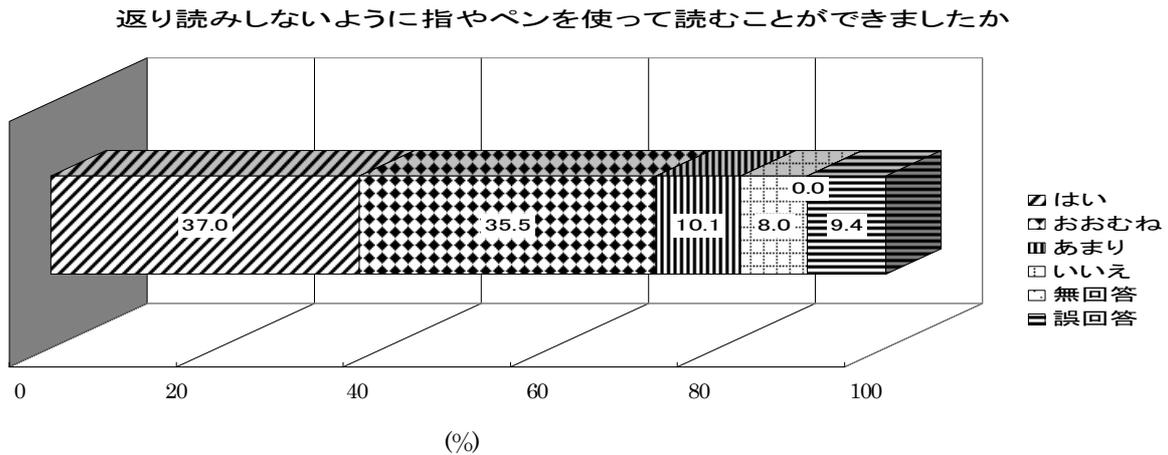
第1時の活動

学習活動・内容	教師の指導 (●)・支援 (○)	留意点
<p>1 リーディング活動の説明、注意読み方について</p> <p>①常に先へと読み進める。 ②理解ができないことが出てきても、すでに読んだ所へ戻らない ③単語を指でなぞり、指は左から右へのみ動かす</p> <p>スピードについて</p> <p>④最初はゆっくりとだんだんと速く読む</p> <p>内容の理解について</p> <p>⑤大意の把握 (内容の5~6割の理解) を目指す ⑥状況を文章で考えるのではなく、想像力を働かせて絵で描くようにする ⑦日本語には訳さない</p> <p>単語について</p> <p>⑧辞書は使わない ⑨意味の理解できない語いは前後から意味を推測する</p> <p>リーダーズシートについて</p> <p>⑩目的と使用方法について説明する</p> <p>2 Reading Practice</p> <p>Words Check</p> <p>①音にならない単語を黙読で探し、ペンでマークする</p> <p>Listening</p> <p>②音と単語 (文字) を一致させるように指・ペンなどで単語をなぞる ③音から単語の意味を推測する</p> <p>Silent Reading</p> <p>④内容理解を意識してゆっくり読む ⑤振り返りをしない</p> <p>Silent Reading and Time First WPM</p> <p>⑥もう一度読んで、内容理解を深める ⑦時間を計り、記録する</p> <p>Questions and Answers</p> <p>⑧問題に解答し、答え合わせをする</p>	<p>○目標は、「自ら英語の情報を読むことができるようになる」ことだと伝える ●振り返りをさせない ●指は左から右へのみ動かさせる</p> <p>○英語を英語のままとらえるように伝える ○登場人物の名前と関係が理解できれば、3割以上は理解できていると伝える ○内容のトピックを表すものとして最後に挿絵を提示することを伝える。</p> <p>●最初に紙の形式で示す ●最後にPCを使い記録をまとめさせる</p> <p>●音にならない単語を探させる</p> <p>●指・ペンなどを使わせる</p> <p>●音から意味を推測させる</p> <p>●状況変化を絵で思い浮かべさせる ●指を使わせる ○日本語に訳さないように伝える</p> <p>●時間を計り、リーダーズシート (紙) に記入させる</p>	<p>◇大意の把握とは内容のトピックが理解できること ◇その鍵は、登場人物とその関係、時・場所が理解できること ◇挿絵を使用して日本語の選択問題を組み合わせる</p> <p>◇自分で取り組んだことを客観的に見る指標として使う</p>

第2時の活動

学習活動・内容	教師の指導 (●)・支援 (○)	留意点
<p>1 Reading Practice</p> <p>Silent Reading and Time Last WPM</p> <p>①読んで、内容理解を深める ②時間を計り、記録する</p> <p>Questions and Answers</p> <p>③問題に解答し、答え合わせをする</p> <p>2 Dating</p> <p>記録をまとめよう</p>	<p>●振り返りをしないように指を使わせる ●時間を計り、リーダーズシートに記入させる ○日本語に訳さずに、状況を絵で思い浮かべられるように伝える</p> <p>●教材の挿絵を使用するが、題材 (英文) は伏せさせ、答え合わせをする</p> <p>●PCを使い記録を入力させる</p>	<p>◇最初に思い浮かべた絵に近いものであったか</p>

資料4 (報告書「Ⅲ 研究結果と考察 2 成果 (2)理解」の記述の基となるデータ)



資料5 (4校時の検証授業終了後のアンケート調査の生徒Bの感想からの抜粋)
 (4校時の参加授業生徒は125名)

9 感想等を記入してください

最初、理解できなかった長文が、家で読んだり、授業で読むにつれて、
 どんどん理解することができて嬉しかった。また、どんどん読むスピード
 が早くなっていくのを感じて、すごく自信がいった。指を使った方が、読み
 めいよと思った。目標にしていた200語を達成できて嬉しかった。
 夏休み中も、たくさん長文を読んで、もっとも自信を上げたと思った。

「家で読んだり、授業で読むにつれてどんどん理解することができて」の記述から

「理解の深まり」を実感できたと読み取った。感想に同様の記述を残した生徒が、13.6%あった。

「どんどん読むスピードが早くなっていくのを感じて」の記述から

「スピードの高まり」を実感したことを読み取った。感想に同様の記述を残した生徒は、29.6%であった。

「たくさん長文を読んで」の記述から

「意欲の伸長」を読み取った。感想に同様の記述を残した生徒は、24.0%であった。